

宇部幸楽苑広報紙

幸 楽 苑 だ よ り

1月号

発行元：介護老人保健施設 宇部幸楽苑
発行日：令和7年 1月1日
TEL 0836-51-3113 FAX 0836-51-5522

新年の「挨拶」

苑長(医師) 前川剛志

新年あけまして

おめでとう

ございます。

皆さま方におかれましては、健やかに年始をお迎えのことと存じます。

改めて宇部幸楽苑の現状、および2025年の取り組みを紹介致します。当苑は100床の介護老人保健施設(老健)です。日々、全ての入所者の日常生活を支え、健康管理を行い、病状に応じた診断と治療をしています。また、より高度な医療が必要な時には、ご家族に相談の上で、急性期病

院に紹介・入院となります。日頃から近隣の施設や病院関係者には大変お世話になり、衷心より感謝・御礼申し上げます。

昨年に入所者に対してより良いサービスを提供するために『働きやすい現場作り』を行いました。物品管理をコンビニ方式として業務の簡素化を図り、入所者の介護、看護、リハビリテーションの時間を増しました。



また、科学的根拠に基づいた日常業務を

実践するために、厚生労働省のLIFEを導入しました。これは当苑および入所者の各種データを数字化して報告することにより、全国や県レベルで評価して返してくれます。このデータを利用すれば、科学的根拠に基づいた現場の改善改革が可能となりますが、昨年暮れには厚生労働省から多くのデータを返却して貰えました。そして職員の間で現場対応能力を向上させる目的で、一年間かけて収集したデータを老健の全国大会で発表することができ、目的を果たせました。

本年はLIFEのデータを基に、科学的な背景のある健康管理と疾病の診断・治療を行うとともに、関連施設や各急性期病院との連携をさらに深めて参ります。そして本年、下関で行われる全国介護老人保健施設大会に複数の演題を出して、さらなる現場対応能力の向上に努め、入所者の健康管理、疾病対応に役立てたいと思います。

宇部幸楽苑は地域に根差した老健、科学的背景を現場にかす老健、職員が働きやすい老健として、職員一同、日々努力して参りますので、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

《基本理念》

私たちはサービス提供者として、常に、地域社会における入所者様・ご家族、並びに利用者の立場に立って考え、最善の行動を致します。

《運営方針》

1. 常に笑顔で誠意のある対応を心掛けます。
2. 説明と同意の実践に努め、納得いただける施設サービスを実施致します。
3. 人権を尊重し、入所者様・ご家族と共に職員が一丸となって自立生活の支援を致します。
4. 個人の尊厳とプライバシーの保護に努めます。
5. 疾病や障害の予防と適切な施設サービスを提供致します。
6. 地域社会と連携して、質の高い施設となるよう努力し、職員は日々研鑽に努めます。

「文化祭の作品を作成しました」

シルエットデザインをベースとしてちぎり絵をしました。イラストは皆さん見てお分かりになると思いますが、「かぐや姫」、「浦島太郎」、「シンデレラ」、「白雪姫」のデザインで、4グループに分かれて作成しました。



「徒然なるままに・・・」

介護福祉士 工藤 京子

私の母は仕事、家事に追われ、ゆっくり子供に関われなかった。

「ゆっくり草花の名前、木々の名前や色々なことを教えてあげていればこんなアホな娘に育たんかったのに・・・。」と笑いながら言っていました。振り向くと変顔をし、私を笑わせた怖がらせたりしてとても愉快な母です。

そんな母も今では87歳。膝を悪くし、杖から歩行器として今では車椅子です。

ショートステイを利用し始めたころから、環境の変化もあり、認知症が始め、時間に関係なく毎日何度も電話攻撃です。トイレの訴え、明日病院に連れて行って等、用件は様々です。

ある夜、夜間せん妄が出て家での生活は難しなく、施設入所となりました。

しかし、まだ出来るのでは・・・何かあるかも、何か忘れているのではと悩み葛藤しました。自身の親を入所させる事で、その時の、「ご家族様の気持ちを分かっているつもりでいきましたが、入所させるご家族様、ご本人様の心情が、こんな気持ちだったのだと改めて分かりました。

母に会いに行くこと「来てくれてありがとう、みんな元気かお？」とみんなを心配してくれます。

母を入所させた時の気持ちを忘れず、これからも利用者様に関わっていききたいと思います。